

# HO YOG 教区新報

1988.12.17号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部

発行所

記念大会で文化体育館に集った仏婦たち



## 「真実のいのち見つめる」

### 華やか教区仏婦 30周年記念大会

2615人が参加

兵庫教区仏教婦人会連盟 結成三十周年記念大会が開催された。十一月十八日はあいにく小雨となったが、二千六百十五人の仏婦会員が、神戸市長田区の県立文化体育館に集まった。大会

役員百数十人が中心となり、会場でのリハーサル、レジメの袋づめなどすべての準備が終了したのは前日の午後八時を回っていた。「仏教婦人会総連盟総裁、大谷範子様のご入場を

「真実のいのち見つめる」と会員の柴田克子さんのアナウンスで記念大会の開幕となった。教区連盟旗、各組連盟旗の入場となり、松井芳子副会長が開会を宣言した。動行のあと小滝教務所長、加藤通子委員長長の挨拶に引き続き総裁様が「兵庫教区仏婦連盟の三十年という大きな区切りを越えて、将来への歩みを

進めて行くことが、私どもの勤めでありましょう」とのお言葉を述べられた。午後には赤松義光氏の指導による讃歌。二時より大会のテーマでもある「みつめよう！真実のいのち」と題して相愛大学学長の中西智海師による記念講演。仏婦会員による話し合いと進み、三時二十分終了した。

その話し合いの中で「最近報道されているベトナム、ドクちゃんのことを思い出したのですけれど、ベトナム兵のかくれる場所を無くするために空から除草剤を大量にまいたため、それが地中に残り、その上に育った作物を食べたためおかあさんの体内にいたベトナム、ドクちゃんに害が及んだ」とありました。そして「それをまいたアメリカ兵も今になって体に異常が現れ、国を相手に訴訟を起こしている」とのニュースでした。いのちって何なのか？平和って何なのか？と考えさせられてしまいますけれど……平和を考える場合も、念仏者であるという原点をふまえておりませんと、平和でさえ政治に利用されるのでは」と述べられた別院の仏婦会員の大久保恵子さんの発言など、参加者一人一人が、仏に生かされるいのちについての思いを新たにしようである。「これで話し合いを終わります」と午後の司会に立たれた上田まや子さんの言葉の後は特に大きな拍手のようであった。

（総裁様のお言葉全文と関連記事は2ページに）  
（西池哲俊）

## 教区だより 12月

- 1日(木) 佐用組ご巡教(11月30日から)
- 2日(金)～3日(土) 豊岡教区報恩講
- 7日(水) 仏婦常例 赤松義光師(網干組政源寺) 1時半～  
ハワイ開教100周年会議  
矯正教化連盟大阪連絡協議会 津村別院
- 12日(月) 社推協常任委員会 10時半～  
社推協副支部長ビハラー部会代表者会議 1時半～
- 14日(水)～16日(金) 別院常例 藤栄行信師(淡路組宣徳寺) 1時半～
- 15日(木) 青僧会研修会 武内紹晃師(阪神西組浄専寺)
- 19日(月) 同兵宗連役員会 神戸市 人権会館
- 19日(月)～20日(火) 第三連区基幹運動協議会 京都 洛兆
- 20日(火) 推進員役員会 10時半～  
青僧会街頭伝道 神戸大丸前 2時～
- 22日(木) 企画推進室常任委員合同会議 2時～
- 23日(金) 都市開教会議 大阪 津村別院
- 26日(月) 組長会 2時～
- 27日(火) 仏青年忘れヤング広場 4時～
- 28日(水) 御用納め(仕事始めは1月9日)

## 連研活性化を

◆10月28日(二)二回目の第一期家族婦人連続学習会を別院で開催。午前中は藤田徹文師の基調講演、午後坊守の智恵と題して仏華の立て方とお供物についての研修などもあり「なるほど、こうすれば」と感心の坊守様◆11月4日(日)推進員役員会、次回神戸での研修会について◆7日(日)別院仏婦常例、講師は杉本顕俊師(阪神北組光円寺)「あなたはあと何年生きられるつもりですか。今、六字の仏に会わないで、いつ会うのですか」との熱弁に思わずうなずくお同行でした◆8日(日)基推委常任、企画合同会議。昭和六十五年開催の門信徒総結集大会(仮称)の企画立案について◆9日(日)都市開教本部会議を大阪の津村別院で、京阪神の中で今から都市開教を始めたいとの人々に対しての振興金庫貸付審査◆10日(日)岡山県の国立ハルセン病患者療養施設、長島愛生園・光明園で報恩講。毎年教務所長も出席しているが今年の法要は、療養所の中に親鸞聖人のみ教えに



みかきをしました「これをするとお取り越しの季節です」と仏婦会員◆近同推広報部会、毎年各寺院に二枚配付しているポスターについて検討◆14日(日)別院常例。講師は青木敬介師(網干組西念寺)「お釈迦様の生まれたいインドのお話」とお参りのおおあちゃん◆

生前のご苦勞を偲び  
謹んで敬用の意を表します。(敬称略)  
赤穂北組浄光寺前坊守 岡山北組浄光寺住職  
布埜 經子 11月8日 大山 潜雄 11月18日

## 寺報から

夜はネコとフトンを  
冬の気配が感ぜられるようになってから、夜はネコとふとんの取りあいをしています。寒さが厳しくなります。お体を大切に。  
(神戸西組宝珠寺「みのり」63号らくがき)

## 教区新報へ

写真が大きすぎる  
紙面の割に写真が少々大きすぎること感じます。スポット電話一口法話を世情批評など入れると面白くなると思います。

ボスター標語募集  
近畿同朋運動推進協議会では毎年標語ボスターを掲示伝道用に、各寺に配布しています。今年も同朋運動推進の標語を広く募集します。一月十日の締切までに教務所必着で奮ってお寄せ下さい。(事務局)



寺の機能は  
いうまでもなく教化伝道。教化伝道のない寺は既に寺ではない。観光も連夜まわりも伝道の一つといいたいたいところだが、一つという以上他に何かがあるといえることとで、見せ物とお経の配達だけではすくなくとも真宗寺院とはいえない◆暮らしているのかいけないかだけが問題ではなからう。今の社会には寺としてほっておけない問題が増えているのではないか。そこから目を離してはいけない。迷信がばっこしている。寺に参りたくても参れない独居老人・寝たきり老人が増えている。若者対策は……等々◆それらへの対応には必ずから今までの教化伝道方法とは違った新しい教化方法を創り出してゆかねばならない。ビハラー運動・テレホン法話・組報寺報など◆総じて激しく動かなければできぬことばかりだが、それを真剣に取り組んでくださる教区の若い人たちに万服の敬意と声援を送りたい。できれば教区にこの研究機関のようなものができればと願っている。

大谷範子仏教婦人会総連盟総裁様のお言葉全文は次のとおり。

お念仏を申す身に…  
兵庫教区仏教婦人会連盟が結成三十周年を迎えられ、こうしてたくさんの方々がお集まりになって、記念の大会を開かれます事、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。先ほど加藤委員長様のごあいさつの中にもございましたけれども、三十周年を迎えると言うのは大変な事です。たくさんの方々のお蔭によるものだと私も思います。

まず、この素晴らしい教え、浄土真宗のみ教えを開いて下さった開山親鸞聖人。仏教婦人会綱領をたいて活動して下さった仏婦の会員の方々、リーダーシップを発揮して下さった歴代の委員長様始め、会員の方々。ご指導下さるご任職、専従員の先生方。こまごまとしたお世話をやいて下さった坊守様方。そしてまた、仏婦活動に良き理解を示し、ご協力下さった会員の家族の皆様方、こうして一人一人具体的に、この方々の方々と、お名前を上げる方々以外にもたくさんの方々の力

# 30年の区切りを越えて

## 大谷範子総連盟総裁さまのお言葉



によって今日の良き日を迎える事が出来たと感謝いたしております。  
「世の中の理は本当に縁起の理だなあ」と実感として感じられます。さて、親鸞聖人が歎異抄の第六章の中で次のようにお述べになつたと書いてございます。「人間のはからいによらない。おのずからの理にかなうなら、阿弥陀如来のご恩を知り。又師のご恩を知るはずである」と。私の力によってお念仏を申す身にさせていたただいたのはありません。阿弥陀如来様の力によって、この口から、手は合掌してお念仏申す身にさせていたただいたのです。

### 自覚を新たに

そうした念仏者の集まりが仏教婦人会連盟です。その事を思い出すと阿弥陀如来様のご恩を思い、師のご恩を思い、つまり私以外の人々のご恩を思つて「おかげさま、ありがとう」と言う気持ちで、仏教婦人会連盟の活動を進めていただきたいと思います。

います。連盟の事だけではなく、時の流れは、立ち止まって振り返って初めて、こんなになつたのかとしみじみと思うような事です。三十年間仏教婦人会連盟は何をしてきたのでしょうか。会員の皆様方お一人お一人は、仏教婦連盟の中でどんな活動をしていらっしゃったのでしょうか。誇りに思うような事もなく、悔やまれます。けれども、悔やまれないような事もあつたでしょう。しかし、この三十年と言う大きな区切りを越えて、将来へ歩みを進めて行く事が、この式典に会つた私どもの勤めでありましよう。どうぞ、未来へ兵庫教区仏婦連盟の歴史をつないで下さいませよう念じております。

### 「私達もコーラスを」

なごやかに祝賀パーティー

午後五時から三百四十婦会員によるコーラスを聞きながら「私達の組の仏婦でもコーラスをやりたいので祝賀懇親会となった。豊原大潤元総長や、この大会の表紙を飾った「恵信尼さま」と「心月」の絵を提供して頂いた谷川真淳師などの祝辞もあり。またあるテーブルでは、阪神北組の仏



美しいハーモニイの阪神北組仏婦コーラス

# 今、お寺で

## 「私の教学」が問われる中で 今、播磨東組の寺婦達は…

播磨東組寺婦人会では今、歎異抄をひもといて浄土真宗の法義を学んでいる。今までも、例会には教義や声明についての研修の時間を持つて学びを深めてはいたが、このたびは例会の回数も増して、ゆったりとした時間の中で学習を深めよう、とはり切っている。テキストとして旺文社文庫本の現代語訳対照の「歎異抄」を各自購入し、朗読、ビデオによる学習、講師を招いて講話を聴聞など多面的な学習をこころみている。まだ回も浅く、遅々たる学びではあるが、目で、耳で、声で、じかにお聖教の文に接し、おこころにふれようとする。その営みは求道聞法のうえからも、法味愛樂のうえからも大切なことであると思うことである。それにつけても、近年、教えに問う、教に学ぶ、という表現が示すように、自身の教学的営みが問われて

きている。ちなみに教学ということについて、「教学とは、教えを学び自己を問うと共に、その実践面、つまり教団の対社会性を考えていくことである」と教学本部会議の報告書の中に述べられてある。つまり教学的いとなみは教えを学ぶことからはじまるようである。そのわりには、教法を明らかにされたお聖教を読み学ぶという基本的営みが、僧俗共に薄れてきているように思われてならない。かつて、蓮如上人が法義をかんで含めて示された御文章も、今は箱の中に仕まわられて法要儀式の際に拝読されるのが関の山のようにある。三部経、御本典の通読、とまではいかなくとも、せめて和語のお聖教、おかな聖教などは読ませていただくかねば「いなかのひとびと」の文字のこころも知らず、あさましき愚痴きわまりなく、教えが語られる、というまことに不可解な現象が見聞きされる昨今、とくに

### 神戸正念寺で 本堂落慶法要

神戸中組の正念寺（中央区下山手八丁目）では十一月十九、二十の両日、本堂落慶法要がにぎやかに行われた。折からの寒波ではあったが、好天に恵まれ、参加者は延べ四百人にのぼつたという。任職の増岡康宗師は「ご



別院で勢ぞろいのお稚児さん

門徒の懇念により、このような立派な本堂が建てられたことに感謝の言葉もありません。これからも私の生命の燃え尽きるまで、念仏の道を弘めるために捧げたと思います」と決意を述べておられた。なお近くにある神戸別院からお稚児さんの加わつたおねりの行列もあり両日とも別院境内は華やかな雰囲気に包まれた。寺庭にある者のよくよく思案すべきことではなからうか。今組内の寺族婦人達は自からの目で、お聖教を読み教えを学び、教えに学ぶ営みをはじめている。この会の運営にかかわる任職方とともに、私自身が導かれる思いの中で、ありがたく、うれしくお世話させていただいていることである。播磨東組相談員 森田 智

### 仏教とボランティア

門徒推進員としての行動

「耳が聞えてあたり前の生活から、ある日突然音の世界から幕がおろされまじた。」「さりげない会話に入れない寂しき、感違いからくる怖さ、他人には全く分からないのです。」突然失聴したショックや不安、家族にさえ理解してもらえないいらだち、寂しさ、耳鳴りの苦痛、もどかしさ、焦りなど……。これらの人々は、障害を受容し、苦悩を乗り越えていく中で、肉体的、精神的、社会的に「聴力障害者」として生きねばなりません。原因には病気、薬害、ストレス、事故、災害、高齢などがあるようです。障害者と健常者とのコミュニケーション手段に、手話通訳や筆記通訳があります。八十二歳になる私の父は、中途失聴者です。私と筆記通訳ボランティアとの出合いは、父の姿がその動機でした。「地域社会と自分とが、どうかかわっていくべきか」今正に直面する私にとって「仏教とボランティア」が